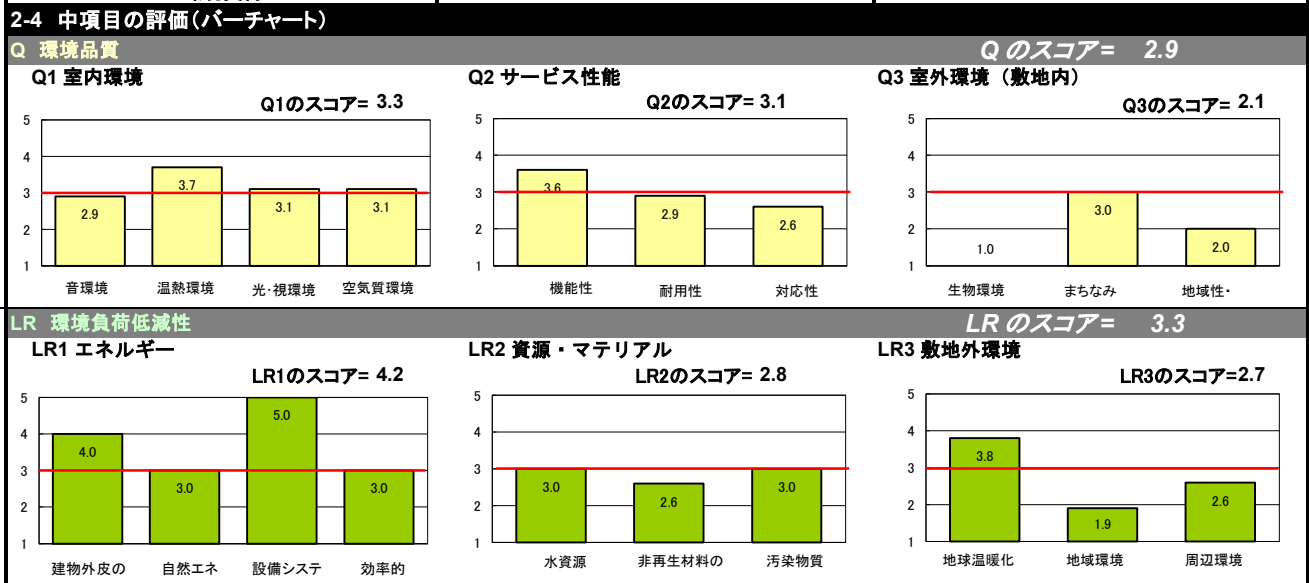
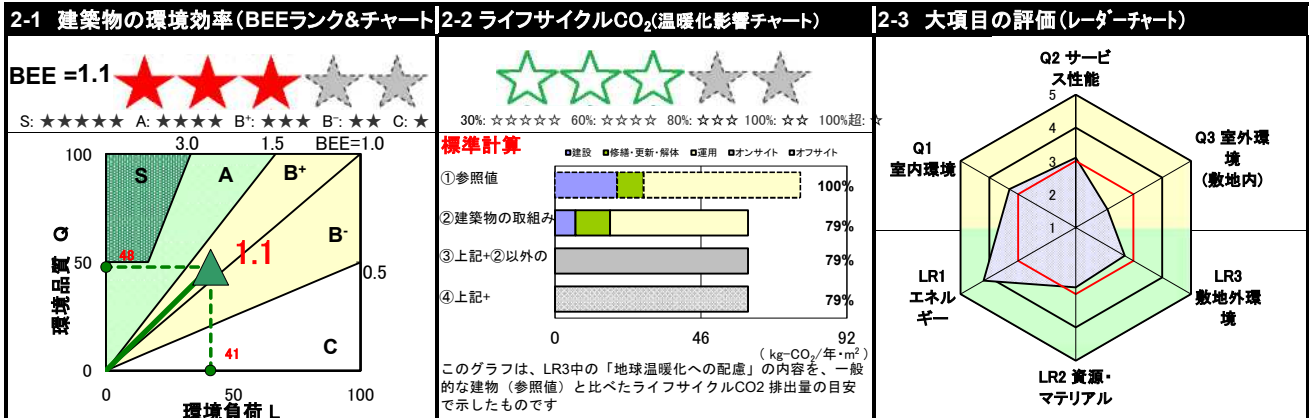


CASBEE®-建築(新築) 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)朝霞台マンション新築工事	階数	地上6F
建設地	埼玉県朝霞市	構造	RC造
用途地域	第1種住居、第1種・第2種中高層住	平均居住人員	93 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年10月 予定	評価の実施日	2024年6月28日
敷地面積	926 m ²	作成者	(株)クレオ
建築面積	420 m ²	確認日	2024年6月28日
延床面積	2,027 m ²	確認者	(株)クレオ



3 設計上の配慮事項		
総合	建築基準法を遵守したうえで、計画前に比べて緑地部分を増やす等、居住者が不自由なく過ごせる空間を整備し、地域環境へも配慮した計画としている。	その他 特になし
Q1 室内環境	居室面積の1/6以上の開閉可能な窓を確保している。	Q2 サービス性能 鉄筋コンクリート造の劣化等級3の性能確保している。
Q3 室外環境(敷地内)		Q3 室外環境(敷地内) 特になし
LR1 エネルギー	断熱等性能等級4相当を確保している。 LED照明を採用している。	LR2 資源・マテリアル GL工法、LGSの乾式壁を採用している。
		LR3 敷地外環境 LCCO ₂ 排出率79%

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
(仮称)朝霞台マンション新築工事

 ■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート 実施設計段階						
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質						2.9
Q1 室内環境			0.40		-	3.3
1 音環境		3.0	0.15	2.9	1.00	2.9
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.50	3.0	0.50	
1.2 遮音		3.0	0.50	2.8	0.50	
1 開口部遮音性能		3.0	1.00	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能		-	-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	2.0	0.20	
1.3 吸音		-	-	1.0	-	
2 温熱環境		1.6	0.35	4.0	1.00	3.7
2.1 室温制御		2.2	0.50	4.0	1.00	
1 室温		3.0	0.63	-	-	
2 外皮性能	断熱等性能等級4	1.0	0.38	4.0	1.00	
3 ゾーン別制御性		3.0	-	-	-	
2.2 湿度制御		1.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式		1.0	0.30	-	-	
3 光・視環境		2.7	0.25	3.2	1.00	3.1
3.1 昼光利用		3.0	0.30	3.4	0.50	
1 昼光率	住居部分で昼光率2.0%以上確保	3.0	0.60	5.0	0.50	
2 方位別開口		-	-	1.0	0.30	
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策		2.0	0.30	3.0	0.50	
1 昼光制御		2.0	1.00	3.0	1.00	
3.3 照度		3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御		3.0	0.25	-	-	
4 空気質環境		2.6	0.25	3.2	1.00	3.1
4.1 発生源対策		3.0	0.60	3.0	0.63	
1 化学汚染物質		3.0	1.00	3.0	1.00	
4.2 換気		2.0	0.40	3.6	0.38	
1 換気量		1.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能	居室面積の1/6以上の開閉可能な窓を確保している	-	-	5.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理		-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視		-	-	-	-	
2 喫煙の制御		-	-	-	-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	3.1
1 機能性		2.4	0.40	3.8	1.00	3.6
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	5.0	0.60	
1 広さ・収納性	機器、配線は、ギガビット対応とする	-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応		-	-	5.0	1.00	
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性		1.0	0.30	2.0	0.40	
1 広さ感・景観		-	-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-	
3 内装計画		1.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理		3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性		2.9	0.30	-	-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.5	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数	劣化等級3相当	5.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		2.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	2種以上にB、Eは不使用	5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		1.8	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		1.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		2.0	0.20	-	-	
3 電気設備		3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		1.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		2.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性		3.2	0.30	2.6	1.00	2.6
3.1 空間のゆとり		-	-	2.2	0.50	
1	階高のゆとり	-	-	3.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	-	-	1.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり		-	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性		3.2	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性	3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	4.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)		-	0.30	-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出		1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮		2.0	0.30	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性		-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー		-	0.40	-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制		断熱等性能等級4以上確保	4.0	0.20	-	4.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.84	5.0	0.50	-	5.0
4 効率的運用			3.0	0.20	-	3.0
集合住宅以外の評価		-	-	-	-	
4.1	モニタリング	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制	-	-	-	-	
集合住宅の評価		3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル		-	0.30	-	-	2.8
1 水資源保護		3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水		3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	3.0	1.00	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無	-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減		2.6	0.60	-	-	2.6
2.1 材料使用量の削減		2.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.22	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.22	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		GL工法、LGSの乾式壁を採用	4.0	0.22	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避		3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避		3.0	0.70	-	-	
1	消火剤	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	3.0	0.50	-	-	
3	冷媒	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境		-	0.30	-	-	2.7
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率79%	3.8	0.33	-	3.8
2 地域環境への配慮		1.9	0.33	-	-	1.9
2.1 大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		1.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制		2.7	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減	3.0	0.25	-	-	
2	污水处理負荷抑制	3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮		2.6	0.33	-	-	2.6
3.1 騒音・振動・悪臭の防止		2.0	0.40	-	-	
1	騒音	3.0	0.50	-	-	
2	振動	1.0	0.50	-	-	
3	悪臭	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制		3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制	3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制	-	-	-	-	
3	日照阻害の抑制	3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制		3.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	3.0	0.30	-	-	

CASBEE埼玉県

重点項目シート

■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

1 建物概要

建物名称

(仮称)朝霞台マンション新築工事

BEE

1.1

BEEランク

★★★

2 重点項目の評価

ライフサイクルCO2の削減のスコア 緑の保全・創出のスコア

3.8

+

1.3

=

5.1



重点項目の各スコアの合計点

がんばろう
6.0未満良い
6.0以上非常によい
6.8以上すばらしい
8.0以上

3 重点項目についての環境配慮概要

(1) ライフサイクルCO2の削減

スコア平均 3.8

<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>

LR3 敷地外環境対策

1. 地球温暖化への配慮

スコア 3.8

<配慮した内容を記述>

LCCO2排出率80%

(2) 緑の保全・創出

スコア平均 1.3

<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>

Q3 室外環境(敷地内)

1. 生物環境の保全と創出

スコア 1.0

Q3 室外環境(敷地内)

3. 2 敷地内温熱環境の向上

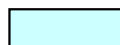
スコア 2.0

LR3 敷地外環境

2. 2 温熱環境悪化の改善

スコア 1.0

<配慮した内容を記述>

 : 入力欄